者は、あらゆるとき、あらゆる場所に於て必要に応じて自由に居住する権利を獲得せねばならぬ。これが我々のスローガンだ。

当面の家賃値下運動をこのスローガンに結びつけることによって、我々は、廣汎なる無産市民に我々の政治斗争の意義を幾分かでも理解せしめることが出来る。そしてこの運動を単なる家賃値下げ運動に終らしめずに労働者農民、無産市民の戦斗的共同の確立の一契機とせしめることができる。以上、

党本部では、この運動を「家賃値下げのための全国無産者会議」にまで発展せしめるべく計画をたてたが、結局、そこまで発展せしめ得なかった。だが全国各地に於て、東京、大阪、埼玉、青森、新潟、兵庫、北海道、九州等に於て、わが党支部の指導下にかなり猛烈なる斗争が行はれた。

二、第五十七議会に対する斗争

浜口内閣によって開かれた最初の議会――第五十七議会に対しては、労農党は無論、断乎として戦った。党本部は十二月廿九日に左の如き指令を発し全国に「議会解散要求」の大衆斗争を捲き起すべきことを指令した。

第五十七議会に対する斗争方針

(イ) 第五十七議会がやがて開かれる。この議会は、言ふまでもなく、浜口内閣によって開かれる最初の議会だ。浜口内閣は、表面自由主義の仮面をかぶつてゐるが、その本質に於ては、無論、資本家地主の反動内閣である。したがって、彼等によって開かれる議会が相も変らぬ反動議会であることは、今からでも明白である。見よ！彼等が五十七議会に提出せんとする十六億数千万円の膨大なる軍事予算を。すべての戦斗的労働組合を骨抜きにし、黄色組合を自己の完全なる統制下に置かんとする彼等の反動的労働組合法案を。戦斗的農民の斗争力を根底から破壊せんとするインチキなる小作法案を。これらは、一体何を物語ってゐるか？すべては、愈々激化せんとする資本の総攻撃の準備だ。彼等は、金解禁を契機として産業の合理化を断行し、やがて労農大衆への猛烈なる総攻撃を開始せんとし、そのために、先づ緊縮政策の全国的宣伝を行ひ、反動的労働組合法、反動的小作法を制定せんとしてゐるのである。

彼等は去る第五十六議会に於て所謂死刑法を制定して無産階級戦線の最尖端を破壊し去らうとしたが今や亦反動的労働組合法、反動的小作法を制定することによって、無産階級の大衆的組織を破カイし去らうとモクロンでゐるのである。しかも、一方に於ては、帝国主義戦争の準備を着々と進行してゐる。見よ！ロンドンに於ける軍備縮少会議――実に軍備拡大会議――に対する彼等のお祭り騒ぎ的乱舞を。彼等のブルジョア議会は、それに対して、「挙国一致」的声援を与へ、意識のおくれたる大衆を欺瞞せんとしてゐるのだ。